

絵画表現と精神分析による問題児の矯正の研究

鈴木 五 男

問題児の人となり

1. 父の偏愛

今後説明の都合上問題児をAとする。
Aの母が妊娠すると父は応召し、Aは戦争中父の留守の間に誕生した。母に育てられ小学校に入学し、1～3年の間は何のことはなかったが、3年の時父が引揚げてからAは一変した。姉や引揚げ後に生まれた子を可愛がり、Aに対しては愛情がなく、包丁の背で頭をたたかれたくらいであった。Aの級友が語ってくれた。「Aちゃん学校で乱暴するけど家では可愛そうですよ。僕のお父さんがこの間朝早く井深へ行きんさった時、まだ暗いのに大根を洗っていたと話してくんさったんな」といった。姉妹との愛情の差別が攻撃狂暴に変じたということは疑う余地はない。

2. 問題児Aの異常行動ぶり

Aちゃんはすぐかっとなる。いつかガラスをバンバンバンと三、四十枚一せいに破っていた。おこればおこる程やるからしまつにおえない。

又Kと言っていたAはKの鞆を開き弁当箱を力一杯たたきペンヤンコにしてしまった。このように非行暴行が多く、友人からおそれられていた。

3. 余りの異常さに教育の限界を感じた。

昔から愛は愛を生み、憎は憎を育てるので、愛を中心として進めばと考えた。Aは家庭において父に愛せられないので憎に変形し、

友人のいやがることばかりして喜んでいるのではなかろうか。ニイルは子供のよくない行動を見てその行動を道徳的見地から批判し、これを不良児と呼ぶ、その行為の結果だけをとらえ何とかして矯正しようとするのは在来の旧式なやり方であるといっている。この目的からとられる方法といえば、きまって訓戒叱責懲罰というような方法であった。このような方法はほとんどその効果をあげることができなかった。いやそれどころか叱られてよけいに言うことをきかなくなり、罰せられて一そう悪化する場合さえ、はなはだ少なくない有様であった。

これらの行為は訓戒も叱責も懲罰も到底達しえないいわば無意識動機に原因することであった。大人はよく子どもに向かって「このことがどれほど悪いことか知らないのか」といって叱るが、子どもはそれが悪いことだということは百も承知なのである。困った子どもというのは実は不幸な子どもである。その子どもは内心に戦っている。その結果として外部に向かって戦うのである。まことに問題の子どもとは内に葛藤をもっている子どもである。今まで従来の教育から離れられないでいた自分を反省し、これは深層心理に入る事だと思い、精神分析の本を二、三冊買ってきて、一生懸命よんだ。しかしなかなかAちゃんを救う方法はわからなかった。

これではAちゃんは救えないと考えた私は東京へ留学し精神分析学の小学部長霜田静志先生の家を尋ねることにした。そしてAちゃんのことを話し、どうしたらなおせるだろうかと相談した。ここでエディプスコンプレックス（精神

分析学の中心的考え方ーギリシャ悲劇の中心人物エディプス王からフロイドはとった。ギリシャの都市国家アテネの王子エディプスは父を殺し、母と結婚するという神の託宣を得て生まれた。そこで託宣通りに実現させてしまったのでエディプス王は両眼を錐でつき、娘アンティゴネーに手をひかれて、さすらいの旅に出るのである。

エディプスコンプレックスは一口にいえば子どもの自我の確立のため必要な幼児期の息子と父親との対決を主題としたものである。母親と自分との身体的に密接な結びつきと、そこから得られる性的な快感を独占しようとする子どもは、父親の存在が邪魔になり、父親を殺して母親といっしょになろうと思うのであるが、そう考えたことで罪の意識をもち、逆に父に叱られて去勢されるのではないかという恐怖を抱くというのがフロイドの考えたエディプス、コンプレックスの内容であり中心理論である。

ここまで読んでゆっくり考えAちゃんと二重写しにした時、Aちゃんの像が少しははっきりしてきた。私自信がもっと精神分析学を勉強し、子どもを理解しなければいけないと考えた。

Aを矯正する精神分析学の原理がもう一つあった。それはエディプス、コンプレックスとならんで、カインコンプレックスである。フロイドはエディプスコンプレックスをギリシャ悲劇からとったようにカインコンプレックスは旧約聖書からとっている。旧約聖書によればアブラハムには二人子どもがあった。兄はカイン、弟はアベルといった。アブラハムはカインに農業、アベルに牧畜をやるように言い渡した。アベルは天帝を尊敬していたので犠牲(いけにえ)に丸々と太った子羊を焼いて拝んでいた。カインは余り神を尊敬していなかったので一番悪い小麦を犠牲に焼いて拝んでいた。カインの煙は横に流れ、アベルの煙は天まで上がっていった。それを見たカインは神はアベルを愛していると嫉妬し、ある日鎌で弟アベルを殺してしまった。天帝が下を見るとアベルがいないので「カイン、アベルはどうした」と叫んだ。罪におののくカインは「私はアベルの子守じゃありません」といった。血を吸った大地からも「アベルどうし

た」と聞こえる。カインは耳を閉じたがきこえる。恐怖におののいてどんどん逃げていって最後は「エデンの東」まで逃げのびカインの子孫はエデンの東で栄えたと旧約聖書にある。アメリカの文豪スタインベックはこれを「エデンの東」に書いた。映画化され世界の映画界のアイドル、ジェームス・ディンが主演し世界の評判になり、岐阜でもテレビでも何度も上映され感動を生んだ。ジェームス・ディンはその他「理由なき反抗」など精神分析学の思想をふくんだ映画に出演し、世界の教育の啓蒙につくした。学生にも見てくるように話した。見てきた学生は大へん感激して話してくれた。

旧約聖書の昔から兄弟は相争うものであるらしい。

私は講義の時「兄弟姉妹をくらべて叱ってもほめてもはげましてもよくない、百害あって一利はない」と話している。十年程前名古屋で金属バットで殴り殺された事件があった。父が名門大学出身で長男も名門大学へ入り、弟の高校生は余りバツとしなかった。みんなもやがて結婚し子どもが出来てであろうが、主人がそのような風であつたら上手にたしなめることが大事であることをよく心得ておくことが大事だとしっかり話している。

Aちゃんも姉や妹と差別されては、カッとなるのは当たり前である。Aちゃんはエディプス、コンプレックスとカインコンプレックスの相乗効果ではたまったものではない。ここにきて指導方針が明確になった。前意識をしっかりとつかみ絵画指導にはげみ、前意識の中心へ迫り、Aちゃんの現状打破に迫ることであると確信した。

絵画表現の基盤

1. Aの精神的ふんい気の純化

絵画表現を自由にし前意識が素直に出てAの非行が矯正できるようにする為、先ず学級のふんい気をよくする為に指導方法を考えた。

(イ) 学級裁判

子ども会で学級の約束を破るものがあるがど

うしたらよいでしょうという問題がでて学級裁判的組織を作ろうという意見が多数あった。さてそこでその裁判官を誰にするかということになった。

今迄Aちゃんの言動に対してどうしたらよいだろうということについては随分話し合い指導もして来たのだが、不意のことで細にいて指導がしてないのでどうなるか不安だった。どうかうまく投票してくれよと祈る気持ちだった。ところが子ども達の考えは間違っていないで、Aちゃんが次点で当選した。私は涙が出る程うれしかった。学級の子どもたちが、よくここまで育ててくれた。私と同じ気持ちになってくれていたということがとてもうれしかった。

翌日の反省会の時間

「人にめいわくをかけ、約束を破った人は出て下さい」と得意満々のAちゃんが、「どうしてそんなことしたのですか」といっている姿が見られた。こうして学級からAちゃんの暴行は少しずつ少なくなっていった。

(ロ) チン御苦労様

いつもワイセツなことを大声で叫ぶAちゃん、禁止すれば、皆が笑えばよけい大声で叫ぶAちゃんなのに、独り勉強がはじまって鉛筆の走る音だけ聞こえて来る。今日はめずらしくAちゃんも机にいて一生懸命に何か書いている。私は指導机でノートを見ていた。私のすぐ前がAの席である。暫く仕事をしていたAが突然大きな声で、
「チン」
といった。

私はおどろいて又言うな。と思ってAの顔を見て、ニッコリした。Aもニッコリして「御苦労様」といって又仕事をはじめた。うまくいったな、と嬉しくなった。よくここまで育ったなと心から思った。こうして絵画表現と学級経営の基礎が割に早く出て来た。これでAの絵画指導の原点の自由が確立した。

(イ) 絵画表現と精神分析学と前意識

{ 意識的精神過程…… } 自我 (現実原理にしたがう)
{ 無意識的精神過程… }

前意識

意思的に再生可能

無意識

意思的に再生不可能

抑圧するもの……超我

外界教育の影響によりイドより二次的に分化したもの、これにより次に現実原理にしたがわしめる

抑圧させるもの

検問者

…イドまたは 原始的本能
エス 的快感原理
にしたがう

その他の無意識のもの

よく無意識を意識化するというがそれは不可能なことで、再生可能なのは前意識である。

絵画表現と前意識

1. 子どもの絵について

子供の絵は事物の模写や説明でなく広義の伝達である。

(1) むたくり

手指の運動であり絵のはじまりであり、母からの分離の回復の努力であり（離乳期にはじまり、よごして母をひきつけようとするものである）

この中にも前意識も解釈によって出るので子どもを知ることができる。

(2) カタルシスとしての表現

ギリシャ悲劇はカタルシスにするため奴隷に見せるよう絵もカタルシスになる。

(3) 伝達としての表現

表現は伝達である。表現は他人を動かそうとする意志を包含する。だからそれは社会活動で

ある。表現は単なる流出でもないし、知覚の必然的な産物でもない。『それは本質的に他人から反応を求めている申し込み』である。——これは色、形の象徴、ストローク等による前意識の伝達である。こうして人間形成に役立てるのである。

(4) 抑圧を創造へ通路をつける。

(5) 錯誤活動でどさくさにまぎれて本心が出る。
夢 絵 錯誤行動

(6) 心不可得 正法眼蔵（道元禪師）何故そうするのかどうかわからぬ。

(7) 心は氷山にたとえられ無意識は海面下で海上に出ている少ない魂が意識で人間を動かしているのは無意識である。スタンレーホール

(8) P99で、説明している精神分析学の全体要図表を見ればわかるように前意識は意志的に再生可能である。意志的に再生不可能な無意識の意識化はできないのでやめて教育的には前意識を考えて教育を考えていくのがよいのである。次から絵を見て解釈したAちゃんの記録について説明する。

2. Aちゃんの絵と前意識

(1) うさぎの肉 図、1

Aちゃんの家はうさぎの肉屋である。Aちゃんの父はうさぎを殺して肉にしている。黄色の地に白のうさぎ、赤い点が一ぱい描いてある。うさぎの線は黒と灰である。一見赤い点がいらいさせるところがある。Aちゃんの心がよくわかる。黄と黒のコントラストは愛情不足を物語る。

(2) ピノキオ箆の中にいる鳥 図、2

箆の中に入れられた小鳥を描いたテーマ。色は黄と赤と黒で愛情不足を物語り、Aちゃんの絵らしいところがある。表現はAちゃんらしく力強いところがある。

(3) 大きな顔 図、3

紙をとび出して描かれた大きな顔、赤い顔、黄色の歯などで、はっきりわかる。黒で線が描かれているのではっきり見える。中央にある大きな鼻、中央に紙をはみ出して描かれていることは、Aちゃんの主体性というか、外への力強いエネルギーがよくわかる。黄の上になめられた黒、赤の上へ描かれた黒い線、黒いマウスは愛

情不足を物語る。Aちゃんの家がよくなるまでである。

(4) 赤いリボンをつけた女の子 図、4

Aちゃんは級中で一番きれいな女の子に飛びついたり、後から突然おんぶしたりして驚かしていた。女の子は鋭い目、大きい赤い口、暗い美しい色、Aちゃんらしくなく赤いリボンをつけてしゃれている。鋭い顔はAちゃんの心をあらわしているが、暗いのがよい色でよくまとめている。

(5) 緑色の女 図、5

鋭い目は大きい口はAちゃんの心の悩みというか家庭内のことがよくわかる。Aちゃんの心中はよくわかるが顔の色、服等なかなか美しい質感もよくあらわれて心がしっかりしていてよい絵になった。

(6) 海賊船の旗 図、6

この絵はAちゃんが私の机の上にあったインキで自由に描いたものである。海賊船の旗はAちゃんの描きたいものを自由に描いたものである。心の荒れているAちゃんの描きそうな絵である。

(7) 自由画 図、7

この絵は私が出張中にほんとに自由に描いたものである。もどつてくると小使のおじさんが「先生描いたぜ、描いたぜ」早速報告してくれた絵である。右の絵は黒い帽子をかぶりすごい目と歯を一ぱい描いたすごい口ーAちゃんらしい攻撃のあふれた絵。

左の白い顔の色、ピンク色の顔、大きいピンク色の耳、服はピンク色と茶色と緑色、背景は緑色で描かれている。

二つならべて見るとこわくなり気持ちが悪くなる。Aちゃんの心の中が見える様だ。

(8) 運動会のポスター 図、8

運動会のポスターの指導をする「わっちんだ絵の具があらへんで描かへん」と無関心の態度であったが、ちょっと指導してみると何しろ頭のよいAちゃんなので、すばらしい出来になった。翌日校門を入りかけるとAちゃんがニコニコしてとんで来て「絵の具買ってこよう先生のお自転車かしてくんさい」ともどかしそうにいつ

た。しめたと思って「そうかそうか」とあわてており、「チェーンがよくはずれるので気をつけていってこいよ」と渡した。カチャカチャ、チャランチャランと悪くなった自転車にしりをふりふりのって行くAちゃんの顔は明るかった。翌日ポスターに彩色した。昼食時間がきても「めしなんか食はへん」と叫んでいたが、すすめたら食べにいったがすぐ帰ってきて又描く熱心さであった。完成するとすばらしいので職員室へもってきて離そうとしない。校長先生にもほめられうれしそうな顔をして「先生来年も教えてくんさい」といった。Aちゃんはすばらしく好転した。私の心の中には嬉しさがこみ上げてきた。もう大丈夫だな、裁判官以来好転してきたようだ。しかしまだ父を教育する必要がある。まだほんものではない。

(9) お話の絵 図、9

今迄の絵は自由に描かしたもののばかりである。授業中のもあればそうでなく私の机の上にあるインキで好きな絵を描いたものであり、又出張中に描いたのも殆ど自由画である。今度はお話の絵を描かしてみようと指導した。こんな絵を描くとは思わなかった程子どもらしい絵を描いた。とてもユニークな絵で、ほかの者にはとても浮かばないような発想だった。この子は随分叱られいじめられていても、のびのびと育っているなあ、他の子どもは一人もこんな絵は描いていないと思った。

木が童話的で面白い。木に窓があってこれも面白い。よく見ると鳥の巣でなく家になっていて窓を作り、カーテンも描き、柵も描いている。三階の木が二本あり一本には一階が入口で戸がついていて開けてある。一本には玄関に鍵がついていてなかなかしっかり描いてある。窓のない木が三本ある。三階のが二本あり、四階のが一本ある。一番この絵で重要なのは幹も枝も切断されていることである。イマジネーションは豊かであるが、切断されている幹と枝である。これは問題だと思った。正にこれは盗意の前意識が絵のどさくさにとび出したものにちがいない。よい資料を見つけた。よしこれでAちゃんの父を教育してやろう。と考えた。

あの親爺は酒をのむにちがいないと思った

が、若し間違っているといけなと考えAちゃんと色々話している中でお父さん酒好きか、先生はあんまり好きでないかと鎌をかれたら、酒は毎晩飲んでおるといったので、しめた。と思ある晩酒を一本下げて遊びにいった。うさぎの肉を焼いて冷でので色々よもやま話をしていた。常識的に家庭訪問をして話しても効果はない。酒好きの人には一杯入れて楽な気持ちにさせて話さないと効果はない。いい加減入ったところで、「ところで親爺さん、Aちゃんこの頃金のことで何かないかな」ときくと「そうやな、何もないけど」と考えておられたが「まてよ、この間酒を買わしにやったらおつりがある筈なのにくれなんだ」「それだ、それだ、みんなわかるぞ、絵の指導者の僕はみんな知っておるぞ、Aちゃんを相当いじめているだろう、ちがうか」「どうしてわかる」「Aちゃんの絵を見たらすぐわかる。一あんまり姉妹とくらべて叱るとひどい目にあうで気をつけなさいよ」と話して帰った。一度にとびこえてAちゃんの父にとびこんでいったら失敗してしまう。まず人間関係をととのえて話さなければいけない。教育には家庭に入れない場合がある。しかし入らねばならぬこともある。普通の家庭訪問をして話し合っても効果は上がらない。腹一杯話しあっても何のことはないという間柄になってから、思い切って教育問題へつつこまねば効果は上がらぬ。これでAちゃんの親爺の心がかかわるだろうか。親爺の心が変わればAちゃんの心がかわり人間が一変する筈だと考えた。裁判官は毎日つづけているし、前のような非行暴行が出なくなっている。一晩の酒くみかわして絵による人間形成を話しあったことで親爺の心が変わり、Aちゃんの前意識を動かしてAちゃんの間人を変えたのかも知れない。ここで絵を描かして打診してみようと思った。

(10) 静物 図、10

好きな静物を描かした。写生でなく自由画を描かした。モデルはないのに今まで静物画を見たことはあるので記憶があるのか形も色も調和のとれた見事な絵を描いた。写真は黒白なので分かりにくいので説明する。腰掛けの上へ赤茶色の布をのせ、朱の壺、その前にざくろといち

じく、みかんらしきものを描いていた。背景はクリームイエローの少し暗いものでまとめた。黒いざくろ、いちじくらしきものがアクセントになってよくまとめられていて色は美しく、構図もよくまとまってすばらしい絵ができていた。酒のみかわして親爺と話しあったことがきいたようだ。Aちゃんは落ち着いて調和のとれた子どもに生まれかわったのではないかと嬉しくなった。Aちゃんはほんものに生まれかわったようだが、また非行暴行が出たら事だと心配しながらうんとほめてやった。まだ前意識へくいこんでしまっているのか明確にわからない。Aちゃんの前意識に肉迫していき、エディプスコンプレックス、カインコンプレックスがよくわかり、理解できた時Aちゃんの非行暴行もなおり、調和のとれた子どもになるであろう。と思った。これからが一番大事だ、教育はこれからだ、なおってしまったと思わぬ事だと、しっかり心の中に入れたことだった。

(11) 山羊 図、11

この絵は山羊である。Aの近くによく山羊が飼ってある。原っぱや、用水のわきに杭にしばりつけて飼ってある。したがってAはよく山羊を見るのでイメージに焼きついていてし、さわったり、だいたりして生活の中にある。又Aの家にも山羊が飼ってある。市展が近づいたので市展に出すからしっかりよい絵を描くよう学級で話した。その時描いたのがこの山羊の絵である。この絵もしっかり描いたし、絵の具で描いた上へ針で毛を一本一本綿密に描いていった。この絵は市展に出した。入選したので早速「親爺さんAの絵が市展に入選したよ。山羊二匹の絵だ、細かく毛までしっかり描いてある。傑作だよ。見とんさい」と知らせてやった。やはり親だ。喜んで見てきてもどってきて満面に喜びをうかべ話してくれた。

(12) 風景 図、12 5年最後の作品

この作品は5年最後の作品であり、Aちゃんの傑作である。富岡の田園風景である。構図もよく、色調もよい、最後にこのような傑作を描いてくれて私は教育者になってよかったなと心の底からうれしくなった。物の見方もよく、空の表現もよく、あの暴力児がよくここまで

図1 うさぎの図

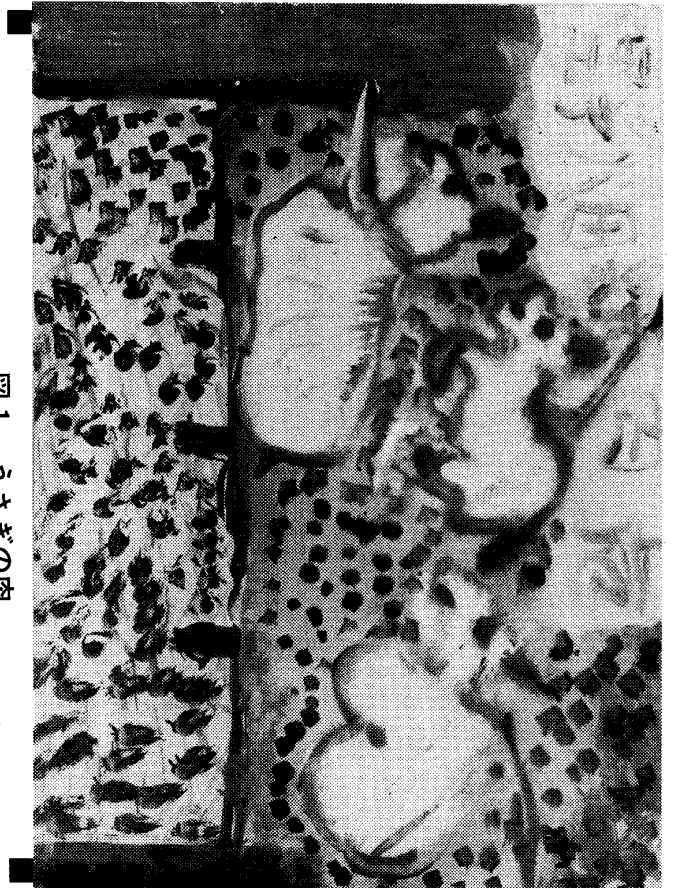


図2 ピノキオ



図3 大きな顔



図5 緑色の女



図4 赤いリボンをつけた女



図6 海賊船の旗

図7 知らぬ内に描いた絵

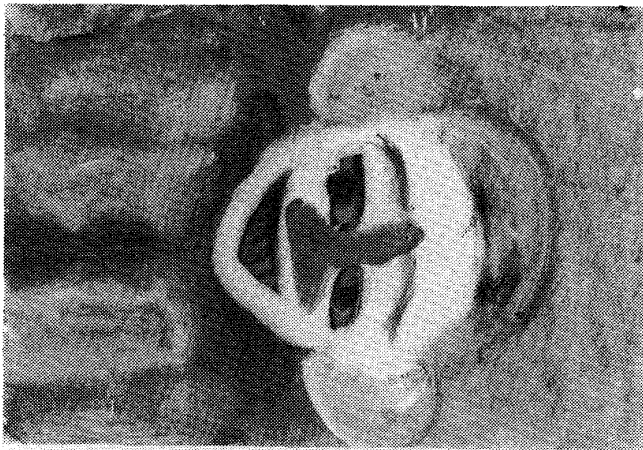


図9 お話の絵

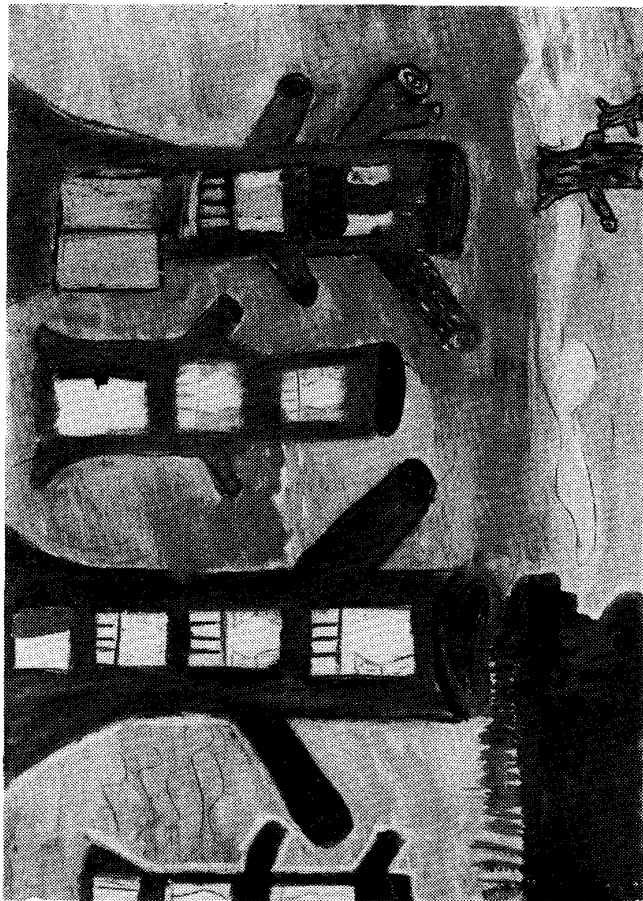
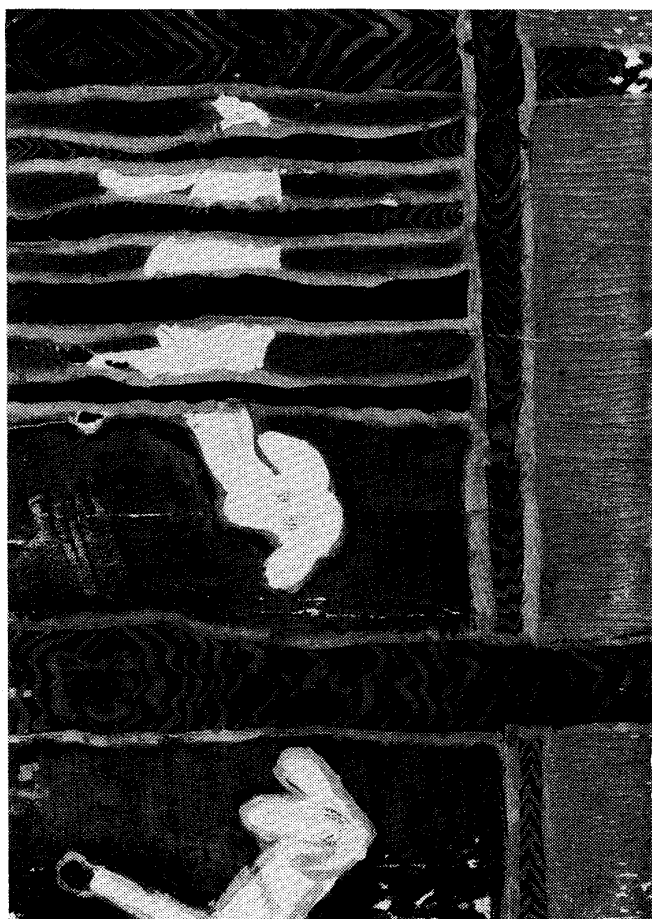


図8 運動会のポスター



図10 静物



しっかり落ち付いていなければ絵はうまくできないものである。精神が自由になり、調和がとれておれば調和のとれた色や形の絵ができる。

4月から学級経営の中での学級裁判や、その他美術をすすめるふんい気と、自由なふんい気を作ることに努力したことが、このような絵をAちゃんが描くようになったのだと思う。

図1、2、3、4、5、6、7の絵はAちゃんの心が自由だけで荒れくるっていたため、絵も荒れていたのである。それが次第によくなり、ポスターの絵（図8）あたりから調和のとれた画になって来た。その他（図9）のお話の絵にあらわれた前意識からAちゃんの盗意を知り、そのことで父との話しあうきっかけが出来た。父は一杯飲みながら話す私の美術教育による人間形成の大切さ、そこまでわかる表現に心を開かれたようで、何でも話していける人間関係が出来上がっていった。これ等の事でAちゃんは次々とよい絵を描くようになり、最終作の下図の風景は本当に色も形もすばらしく調和のとれたよい絵になったのである。

育ってくれた。このような調和のとれた子どもに育ったものだ。と一年間の絵を歴史的にならべて見てその変化をじっと見た。そして教育の変化進歩をふりかえりつつよくここまでこれたなと思うと同時に、鈴木的美術による人間形成の発展の跡がしのばれて、悩みぬいて得たよろこびをかみしめた。そして自分の教育の進歩が明確にわかり、うれしくなると共に一つの教育をなしとげて一人の問題児を救い、学級をまとめ上げた満足感がひしひしとこみ上げてきた。
図12 風景について、

下図 12の絵、風景画はAちゃんの精神も、精神分析学の下意識もしっかり落ちつき、Aちゃんの行動もしっかりし、よい子になった日々がつづいていた時のものである。毎日よい日々がつづいており、行動は落ち付いて友達の困ることもなくよい日々がつづいていた時のことである。

子どもはよく考えてみると、すばらしい人間に成長し、しっかりした人間になった時はじめて落ち付いた絵が描けるものである。精神が

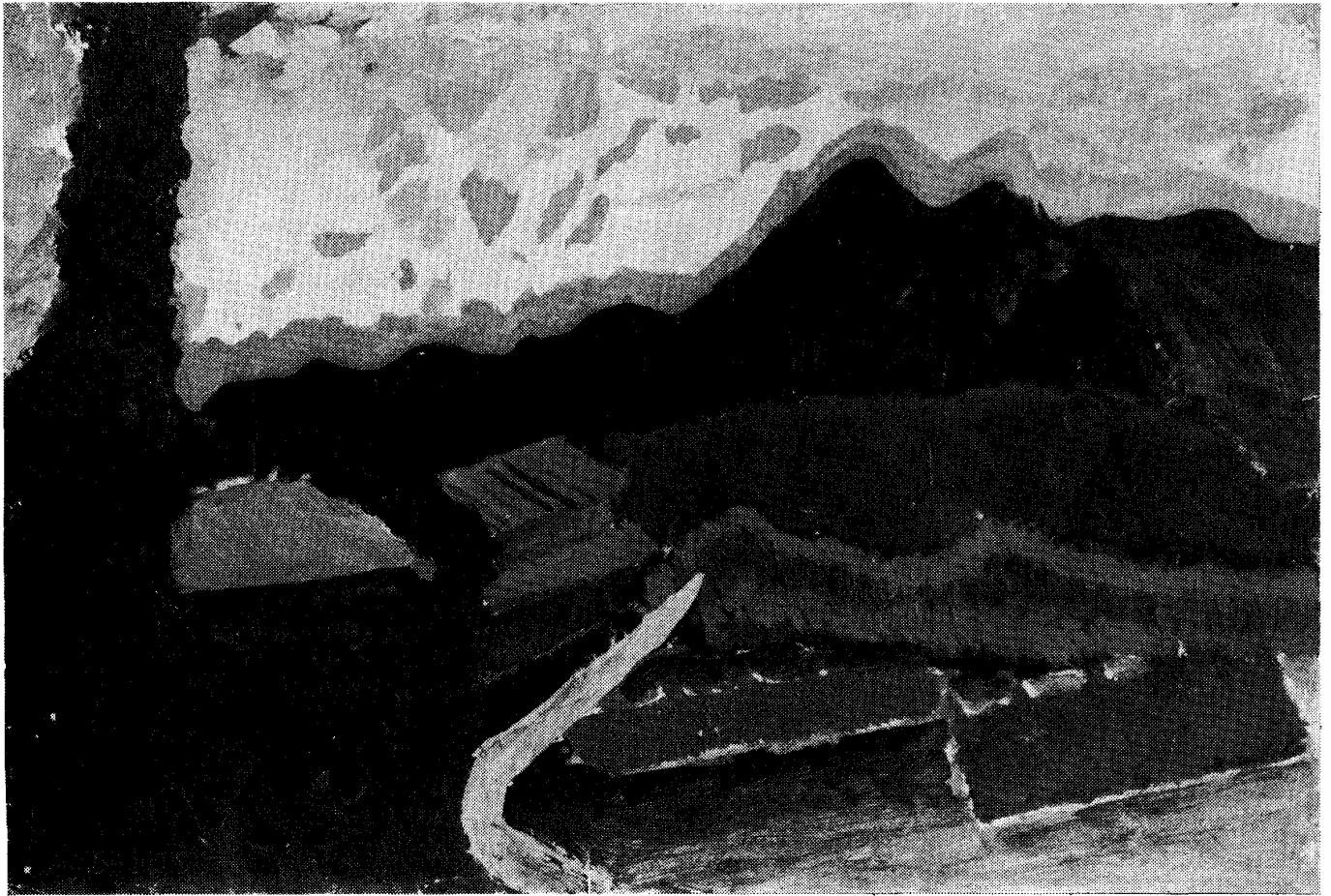


図12 風景

4月から精神分析学を中心として教育を推進したことが、すばらしい力となった。

この絵こそ私の悩んだあげくに生み出した教育の大きな効果だと大切にしている。

下意識の中心へ迫る

1、鬼の顔

夏休みの計画をはじめた。Y子の出した付近の学校を見てくるというのがあった。結局それは希望者だけで行くことになり、目的学校やその他全般的な計画を学級全体できめようとするAちゃんと、希望者だけできめようとするY男、K次とが衝突した。K次は「それぞれ目的が違うから行かない者は相談しなくてよい」と一言にAちゃんはグッとまいったらしく依然狂暴性を発揮した。机の蓋をもっていた金槌で割り、K男とY次になげつけた。あぶない、しまったと思った。身体にあたらずにすんだ。しかしそれでもまだおさまらなくてY男とK次に表へ出るとやくざまがいの行動に出た。これはいけな

い、何か昇華させなくてはと、早速方眼黒板をもってきて、赤チョークで大きな鬼の顔を黒板一杯に描き、「なぐれ」と僕がどなった。

黒板の鬼の絵は出ていないが下図に鬼の絵は①②③④⑤と手の絵⑥が出ている。

Aちゃんがなぐった後、私は「おやおや死んでしまったかね。この人は誰だか知っているかね」というと学級の席からY男とK次の低い声が聞こえてきた。「Y男でもK次でもないね。君のよく知っている人だよ。わかっているんだよ。わかっているね。もっとたんのうするまでなぐってごらん」というと又なぐった。そして今度は赤チョークをもってきて①図を描きにかかった。低い声で話すと次々に描いていった。

①の鬼 「こわい鬼だな。なぐってやれ」 なぐる。「ああ死んでしまった」

②の鬼 「やさしい鬼だな。あれ角が小さくなっている。これだったら機嫌のよい時にはあめ玉ぐらいくれるね」

③の鬼 「これだったらあまえてみたい。何でも買ってくれるよ。あれ角が一つにな

つたね」

④の鬼 「あれ、この鬼笑っているね。こずかいくれそうだね」

⑤の鬼 「角がなくなってしまうと鬼でなく、人間だな。これだったら少しもこわくないね」

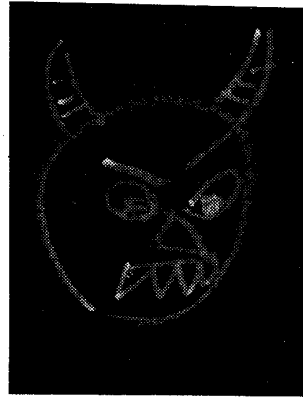
このようなことを低声で絵が変わる毎に合わせて話していった。Aちゃんは何も言わずに絵を描いていった。学級の者は何を先生は話し、Aちゃんは何を描いているのか、めんくらって黙って見ていた。

こうしてAちゃんの下意識の世界にくだいていった。終わったらもう一つの黒板に大きな手を描いたなと思うと消してしまった。Aは泣きかけていた。そしてファイと出ていってしまった。暫くすると帰ってきた。井戸で顔を洗って帽子でふいていた。

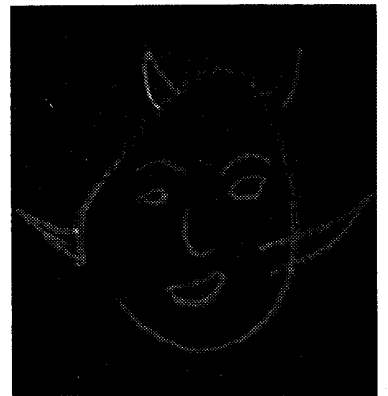
⑥白い手

帰って来たAちゃんは、つぎに白で手を描いた。そしてよい子、わるい子と書いた。これは父をなぐり殺した罪に対しての自己懲罰であろう。こうしてAちゃんの前意識へくだいて二学期からは問題傾向がなくなって来た。そして絵も調和のとれたすばらしいものを書くようになった。

これで私を困らせた問題児Aちゃんの矯正は完成し、絵画表現と精神分析による問題児の研究は終わった。Aちゃんは見違えるようなよい子になり、学級経営はうまくいくようになった。私は嬉しくなり、明るく自由なふんい気の中で毎日の教育をつづけることが出来るようになった。



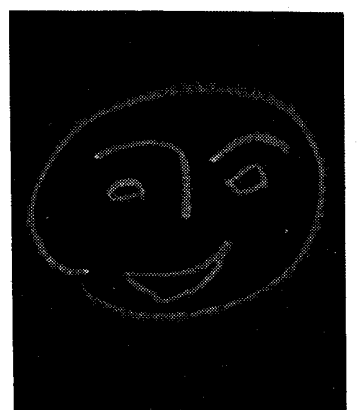
1



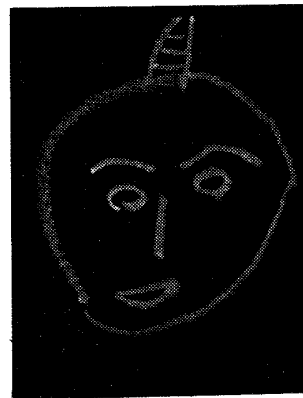
4



2



5



3



6

参考文献

- 1、教育と精神分析 宮城音弥、南 博、佐藤正、霜田静志
- 2、児童と精神分析 霜田静志（フロイド）
- 3、児童分析 アンナ、フロイド（フロイド）
- 4、精神分析から見た児童の心理 霜田静志（フロイド）
- 5、親子の絆をどう生かすか 秋山さと子（ユング）